国会活動

新政権発足!! まっとうな政治の実現に向けて!!

この国の未来のかたち

現在、我が国は人口減少問題をはじめ、年金制度、雇用政策、エネルギー政策、食料農業政策、外交防衛政策など、失われた30年から脱却し、早急な見直しや転換が必要な長期的課題を多数抱えています。これから先、日本はどれくらいの人口と年齢構成で年金制度や社会保障など、社会のあり方を考えて行くのか。この国には現実的で実効性のある長期的国家構想の再構築や目標人口が必要です。子供や若者たちに平和で安心して過ごせる未来を残すために、そしてこの国に生きるすべての世代の為に、この信州長野県から日本全体が輝く国造りを目指していきます。

年金制度改正　将来の年金はどうなるの??

若い世代ほど、生涯でもらえる厚生年金等が増える

改正前に比べて、数十万円から数百万円単位で増えます。

例）厚生年金加入者が平均余命まで生存の場合（モデル年金１人分）

年齢	男性	女性
20 歳	+248万円	+298万円
30 歳	+248万円	+298万円
40 歳	+246万円	+295万円
50 歳	+170万円	+219万円
60 歳	+26万円	+73万円

出典：立憲民主党HPのグラフをもとに神津たけし事務所作成

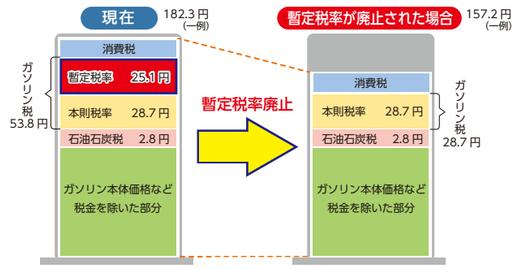
今年の通常国会では、年金改革の法案が成立しました。政府・与党が提出した案は、現役世代・若者の基礎年金の最大3割カットを放置する内容でした。そのままでは将来、多くの現役世代・若者が生活保護に陥ることが危惧されたため、私たちは年金底上げのための提案を行い改正されました。**年金を受け取りながら働く高齢者の減額基準も緩和される**など、すべての世代が安心して暮らせる社会を目指すための重要な改正となりました。**これにより生涯でもらえる厚生年金等が数十万円から数百万円単位で増えることになりました。**

都会と地方の格差に挑む!!

ガソリン税暫定税率廃止!!

私たち野党は、地方の暮らしを守るためガソリン税暫定税率の廃止に取り組んできました。これまで衆議院では可決されながら参議院で審議が進まず停滞していましたが、2024年衆院選、2025年参院選を経て議論が再開され、2025年11月28日に参院本会議で法案が可決・成立しました。これにより、12月31日に暫定税率が正式廃止され、車社会の地方が長年背負ってきた重い負担がようやく軽くなります。この成果は私たちの努力だけでなく、多くの方々の声が政治を動かした結果であり、地域の未来に希望をもたらす大きな一歩です。

ガソリン１ℓ当たりの小売価格の内訳

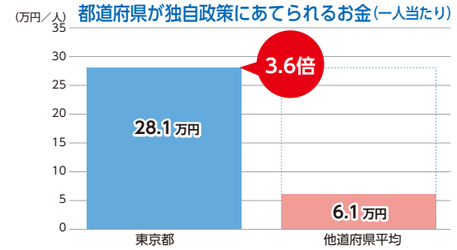


出典：神津たけし事務所作成

地方の暮らしを守る!!

地方で実現するのが難しい政策でも東京では実現する。東京では潤沢な財政力を背景に、他の地方自治体では実現困難な独自政策が多くあります。具体的には、「所得制限ナシの高校授業料無償化」、「高額な電気自動車購入補助」、「卵子凍結補助」、「公共交通シルバーパス」、さらには「スタートアップ支援」や「海外留学支援」などが挙げられます。こうした東京のみで提供される手厚い行政サービスは、地方からのさらなる若者層流出を招き新たな地域間格差を拡大させる要因となっています 。持続可能な国づくりのためには、この税収の偏りを是正し、各地方が独自の財源を持って住民サービスに取り組めるよう、地方税制の修正を求めていきます。

都道府県が独自政策にあてられるお金（一人当たり）



出典：令和5年度総務省財政指数表をもとに神津たけし事務所作成

この国の未来のために!!

道路が繋ぐ未来への道

高度経済成長とともに建設が進んだ道路や上下水道など、老朽化したインフラの維持、管理が深刻な課題となっています。国土交通委員会では、中部横断自動車道をはじめ、国道18号・坂城更埴バイパス、上田バイパスの全線開通や国道143号青木峠トンネルの建設と合わせ、老朽化インフラ対策に対する十分な予算付けをしてもらえるよう質問に立っていきます。
地方の生活を守れるように、引き続き地元自治体の皆様と協力し、活動していきます。

＊出典：長野県HPより 臼田IC付近から見た山梨方面

災害から農業を守る!!

近年、頻発し、激甚化する自然災害は、日本の食を支える農家の皆様にとって、生活に直結する深刻な問題となっています。凍霜害や雹害、田畑への土砂流入など、現場を視察するたびに、災害補償制度の脆弱性を痛感しています。安心して農業を続けられる環境を国が責任をもって整備することの緊急性を感じずにはいられません。現在の農林水産省の予算は過去と比較して半分になりました。この予算を元に戻すことが不可欠です。農業従事者を増やし、食料自給率を向上させていくためには、農業者の所得補償制度の実現と合わせ、災害に対する補償を抜本的に見直すことで、農家の皆様が安心して営農できる環境を整えていかなくてはなりません。